平成 30 年度　第２回さいたまはーと推進協議会

会議録

日時　：平成３１年３月１９日（火）１０：００～１２：００
場所　：下落合コミュニティセンター多目的ルーム
出席者：別紙のとおり

１．開会

事 務 局　　司会進行、配布資料の確認、変更委員の紹介、欠席委員の紹介、課長挨拶

２．会長及び副会長の選任

事 務 局　　会長の選任について、事務局案として、引き続き大森委員を推薦させていただきたいと考えている。

委　　員　　異議なし。

事 務 局　　会長は大森委員に決定とさせていただく。
会長よりご挨拶をいただきたい。

大森会長　　引き続き、会長を務めさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

事 務 局　　副会長の選任について、さいたまはーと推進協議会設置要綱第５条第３項に基づき、会長が指名することとされている。
大森会長に指名をお願いしたい。

大森会長　　多くの自治体の自転車利用の推進計画に関わり、ご経験の豊富な古倉委員を引き続き副会長に指名したい。

委　　員　　異議なし。

事 務 局　　副会長は、古倉委員に決定とさせていただく。

３．議事

⑴　サイクリングマップについて

事 務 局　　資料１に基づく説明

韓 委 員　　ホームページの掲載や Googlemap の活用、スマートフォンから見れる web サイトへの展開予定はあるか。また、英語などの多言語化の取組予定はあるか。

事 務 局　　アプリの作成など、発信力も高く重要だと認識しており、検討しながら進めていきたい。また、当面はホームページや facebook での情報発信を取らせていただきたい。
多言語化については、ワークショップで意見をいただいており、インバウンド向けの情報も必要と考えている。

古倉委員　　いつも同じ出発点ではなく、コースの出発点を変えることによって、変化のあるリピーターを呼ぶ取組が必要だと考える。違った出発点から違った目的地など、いろいろなシーンを設定し考えていくことが必要ではないか。
例えば、子ども、親子連れ、高齢者が安心して走るルート設定や、季節や天候などに合わせたルート設定や区間などを地図に提示してはどうか。
また、地域で特徴のある生産現場(工場など)などの産業スポットを目的地に入れることで、地域を知ってもらい、活性化にもつながっていくと考える。
さらに、健康などをテーマにしたコースなど、将来的に広げていくことを検討してはどうか。

事 務 局　　親子連れ、高齢者向けのルート設定や四季折々のルートなど、作るだけでなく、育てていくというコンセプトでマップを作成している。作って終わりではなく応用化・進化させたいと考えている。
また、ワークショップでは、まちづくり団体や地元の学生などに参画いただいており、様々な視点を取り入れて、引き続き検討していきたい。

松原委員　　県外から来るサイクリストは、自分の自転車を持ってくる方も多いと思う。大宮駅やさいたま新都心駅などで、自転車を組み立てる場所や分解する場所などがあるとよいのではないか。

事 務 局　　市内に呼び込む意味でもサイクリストをサポートできる施設を増やしていきたい。現在、自転車ラックや空気入れなどを貸し出すサイクルサポート施設などの取組を行っているが、輪行向けの施設も今後充実させ、マップにも載せられるとよいと考えている。

吉村委員　　交通安全教育の視点でみると、自転車の安全利用の心得など、文字が細かく書いているが、言葉だけでは、どうしても伝わらないものもあるので、イラストなど分かりやすい表現があるとよい。

事 務 局　　分かりやすい表現も必要だと思うので、マップ更新の際は検討させていただきたい。

藤田委員　　交通ルールやマナーなどの注意事項を赤字やアンダーラインなどで強調させるとよいのではないか。

事 務 局　　今後、注意喚起に視点をおいて作成していきたいと考える。

川島委員　　これまでの意見はワークショップでも多く挙がっていた。今回の協議会での意見や、ワークショップでの意見を今後具体的に反映できる仕組みがあるとよい。ワークショップメンバーと一緒に作りこみ作業を行うなど、進め方を工夫してもよいのではないか。

事 務 局　　今回は初めてのマップ作成ということもあり、ワークショップでは意見を聴取するのみで終わった。次のマップ作成時は、作成プロセスにおいて、ワークショップメンバーと内容やデザインも含め、意見交換し、進められる仕組みを提案していきたい。

古倉委員　　他の例では案内標識や路面標示などを現地で表示し、地図とセットで表現しているので、これができるとより分かりやすいのではないか。

大森会長　　今回のご意見を踏まえ、修正が可能なものであれば、修正をお願いしたい。

⑵　サイクルパーク構想の検討状況について

事 務 局　　資料２に基づく説明

渡邊委員　　サイクルパークができる前に、乗り方教室など、既存の公園で何ができる

かを検討することも必要だと考える。

古倉委員　自転車文化の創出をサイクルパーク一つに詰め込んで担わせるのは困難だと考える。まずサイクルパークありきではなく、むしろ、自転車の基本的なコンセプトとして、自転車文化を作り上げる自転車文化都市というような独創的な方向を打ち出し、これを受けた形で施策を組み立てることが望ましい。デンマークやオランダでは、次世代を担う子供たちが小さなころから自転車に親しむようにして、自転車文化を醸成し、次世代に継承するようにしている。まずは、市として自転車文化を創造するため、自転車教育の充実や一般公園の活用など、全体的に連携しながら、文化を創造していくことが重要である。サイクルパークは、その重要な柱のひとつとして位置付けた方がよいのではないか。
また、サイクルパークに自転車のプロを育てる役割などがあると、方向性や必要性が、より明確になるのではないか。

事 務 局　デンマークでは、子供たちが自転車を通して、いろいろなものを得ている。このことが自転車文化だと考える。再来年度に行う「さいたまはーと」の中間見直しでは、自転車文化の創造の視点が重要であると考えている。

韓 委 員　サイクルパークの場所は、どこを予定しているのか。

事 務 局　今年度は、さいたま市にふさわしいサイクルパークとはどのようなものか、という視点で調査や検討を進め、役割や機能がまとまってきた。
今後は、サイクルパークを一つの場所につくるのか、分散させるのか、予算や運営などの課題も含め、検討していく。

川島委員　さいたま市としてのコンセプトを定義し、全面に出ていることは、大事なことだと考える。
今後、予算や用地確保の問題があるかもしれないが、それでもさいたま市として違った手法であっても、人が集い、文化が醸成されるような施策を位置付け、進められるとよいと考える。

事 務 局　市としても同様の考えでいる。
予算の都合等も今後発生してくるが、検討していきたいと考える。

大森会長　大変夢のある構想である。来年度も引き続き検討いただきたいと考える。

⑶　さいたま市シェアサイクル普及事業実証実験の状況、これからの見通しについて

事 務 局　　資料３に基づく説明

藤田委員　　交通政策課で実施しているさいたま市地域公共交通協議会では、鉄道・バスやタクシーと一緒に「シェアサイクル」が明確に示されている。

事 務 局　　さいたま市地域公共交通協議会において、シェアサイクルは３年後には公共交通としての性格を持っているのではないかというご意見があった。交通政策課で、公共交通として位置付けるための検討をしていると伺っている。
補足として、シェアサイクルの利用状況として１２，４４２回と明記しあるが、ポートは２５０箇所、自転車が５００～６００台で運営している。この１２，０００回という利用は、大宮周辺で行っているさいたま市コミュニティサイクルと同等の数字である。

川島委員　　なぜ利用が伸びているのかの要因を確認し、さいたまはーととして注目していければよいと考える。

事 務 局　　要因の一つとして、浦和駅周辺は２００台のシェアサイクルポートがあり、環境が整っているということが大きな要因ではないかと考えている。その他に、さいたま市が社会実験として参画しているというアナウンスメントや、本庁舎などの目立つところにポートを設置している効果などが、複合的に表れていると考えている。
府中市や千葉市、台東区などの近隣の都市が、先行して実証実験を実施しており、これらの都市と比較すると、さいたま市は土日の利用が高い傾向にあると運営会社から伺っている。
その要因が何かも含め、今後は、広域的に他都市と比較しながら分析し、情報が整理でき次第、協議会で報告させていただきたい。

大森会長　　利用者へのアンケート調査は、考えているのか。

事 務 局　　事業者が、利用サービス向上のために、スマートフォンアプリにアンケートを行える機能を設けているので、今後活用していきたい。

藤倉委員　　シェアサイクルやさいたま市コミュニティサイクルについて、今後は民間事業者に移行していく方向なのか。市内には同業者も多くいるため、修理や購入のお客が減ってしまうことが懸念される。中国でも問題になっているが、このような問題もクリアしていくのか。

事 務 局　さいたま市コミュニティサイクル事業は、整備費の関係からポートの拡充は難しく、運営も頭打ちで年間の赤字を事業者が抱えており、継続は難しいと考える。
現在取り組んでいるシェアサイクル事業は、どのようにしたら普及していくのかを社会実験として行っている状況である。シェアサイクルの普及にあたっては、自転車店や公共交通（バス等）への影響も懸念されており、地域とのかかわりも大事であると認識している。
公共交通からシェアサイクルへの転換ではなく、自転車を今まで乗っていない方や普段自動車に乗っている方の自転車への転換を期待している。社会実験を開始して、すぐに変化が起きるものでないと考えているため、長い期間行うなかで、行動の変化を様々な角度から検討していきたいと考える。また、ビッグデータもあわせて活用していきたいと考える。

渡邊委員　自転車店にポートを設置し、そこでアドバイスを受けながらサイクリングをするシステムができるとよいと考える。実際に走行会などのイベントを独自に行っている自転車店も多くいるため、自転車店も含め複合的に考えるとよい。

古倉委員　埼玉県内は自転車の所有率が高いため、マイ自転車とレンタル自転車の役割分担を想定し、議論することが大事である。その中で、誰がどういう使い方をするのか需要を想定し、コンセプトを考えながら社会実験を進めていく必要があると考える。
日常用途や来街者など、どういう目的で、どういう使い方なのか、そのためには、どういうポート配置が必要なのか、という視点で考えるとよい。

事 務 局　現状としては、シェアサイクルの使われ方は、駅から目的地（自宅等）へ行くという利用者が多い。マイ自転車が普及しているため、当然ではあるが、自宅からいける範囲内の目的地（駅など）には自分の自転車で行く。
シェアサイクルの特徴として、満車時には返却できないシステムのため、朝方の時間に比較的余裕のない時間帯の利用が少なく、また、目的地に置けないリスクがあることから、外に出ていく傾向が強い。そのため、不足しているのは住宅街のポートである。
都内の集合住宅では、一人一台自転車が持てないなどの問題の解決策として、シェアサイクルが使われていると伺っている。住宅街にポートを拡充することで、駅から住宅街へ出ていくベクトルを分散させていきたいと考える。

大森会長　　さいたま市としての交通計画全体の話であるため、シェアサイクルの役割に何を期待するのか再確認し、慎重に実証実験を進めるべきである。

(4)　自転車安全啓発冊子の作成について

事 務 局　　資料４に基づく説明

韓 委 員　　配布する場所として、保育園や区役所、学校のほか、自転車店などで配布し、自転車に接する人が立ち寄るところで周知できるとよい。

事 務 局　　ワークショップのなかでも、自転車を買うときに冊子の配布や、乗り方を教えてほしいという意見もあった。検討していきたい。

渡邊委員　　埼玉県での自転車イベントや西区の自転車イベントでも、３人乗り自転車の試し乗りの機会は多くあるが、あまり利用されていなかった。情報が伝わっていない部分もあるため、今後は情報発信をどのようにするのか検討するとよい。

松原委員　　子育てで時間のないお母さん方に対し、動画を発信することで、見やすくすることが大事である。信号待ちでアシスト自転車が青になり、いきなり加速していくところを見ると、不安に感じることがある。このような状況での安全な走り方などの動画を作成し、安全教室に足を運ばなくても動画を見ることで学べるような取組が有効ではないかと考える。

事 務 局　　冊子の配布だけでなく、動画のコンテンツがあるとより分かりやすい情報発信ができると考える。

川島委員　　冊子の配布とともに、データを PDF データでダウンロードでき、自由に活用できる環境を整えることが大事である。

４．報告事項

(1)　さいたま市自転車のまちづくり推進条例について

５．その他

事 務 局　「２０２０年度自転車利用環境向上会議」のさいたま市開催について
さいたまはーとの中間見直しについて

大森会長　近年、電動アシスト自転車の普及や、自動運転技術の向上など、e-モビリティ関連の話題をよく聴く。今後は、この協議会においても、e-モビリティ関連した分野の方を委員に入れていただくと良いと思う。事務局で検討していただきたい。

川島委員　会議を進めるにあたって、案件の予算規模やコストなどの情報あると、意見を引き出すひとつの基準になるので、検討をお願いしたい。

６．閉　会

事 務 局　次回の開催日程は未定のため、日程が決まり次第、案内する。